

を見ていた堀込部落の百姓たちは、「くろには豆をまかねべえ」ということになり、どこの家でも畔道には豆をまかなくなったという。

戦時中、食糧増産のために、畔に豆をつくりたいと考え、神主にお払いを願ひ、それから畔に豆をつくるようになったのである。

今でも「豆まつり」と称して、四月の堰上げの日、部落中が休んで、部落内にある香取神社に総代が一升の豆をそなえ、神主にお払いをうける神事を行なっている。

(話者 広田広美)

## 木之崎のだんご祭り

《上木之崎》

旧歴の二月十八日、木之崎の泉福寺の西側にある雷神様（宝歴年間、森田七工門災害厄除村内安全の為建立と伝えられる）に、上木之崎地区の子どもたちが、重箱に団子を入れて持ち寄り、お互いに交換しあつて食べる。

昔より、他所に嫁いた人たちも、この団子祭りには里帰りし、花火を上げてにぎわつたという。今でも団子まつりの団子を食べると雷よけになると伝えられ、地区の子どもたちはこの祭りをたのしみに行っている。

(「長沼町民俗調査書」より)